

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：34312

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720139

研究課題名(和文) フォト・テキスト研究 米国モダニズム文学とドキュメンタリー写真の交差

研究課題名(英文) Photo-Textual Studies: Intersection between American Modernism and Documentary Photography

研究代表者

山本 裕子 (YAMAMOTO, Yuko)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・准教授

研究者番号：80545377

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、米国モダニズム文学とドキュメンタリー写真との相互影響関係を実証することである。従来、相互排他的な別個の文化現象と考えられてきたモダニズム文学とドキュメンタリー写真との接点に注目することにより、モダニズム/ドキュメンタリーの再定義を試みた。

具体的には、これまで看過されてきたモダニスト作家と写真家との共同作品「フォト・テキスト」を研究対象に据え、モダニズムの変容とフォト・ジャーナリズムの発展を、別個の現象としてではなく、互いに影響・補完しあう「統一の」文化現象として読み直しを図った。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to prove the interactive development between American modernism and documentary photography. By focusing on the nexus of modernist writings to documentary photography, this study attempts to re-define two separate cultural modes called modernism and documentary, which so far have been considered mutually exclusive.

As a result of the textual and archival examination of the overlooked photo-texts by William Faulkner and Walker Evans, this study concludes that the development of modernism and photo-journalism was indeed interactive and complementary.

研究分野：人文学

キーワード：アメリカ 写真 モダニズム ドキュメンタリー

1. 研究開始当初の背景

(1)

従来、20世紀アメリカ文学・文化研究の定説においては、「モダニズム」と「ドキュメンタリー」は、相互排他的な文化現象であるとみなされてきた。前者は、いわゆる「芸術のための芸術」を追求する文芸運動であり、後者は、1930年代の大恐慌を背景に、「大衆のため」をスローガンに掲げたリアリズムを追求する社会運動である。

アメリカにおけるモダニズムとドキュメンタリーの発生と発展は、時期としては重なりあうにもかかわらず、上記にみられる正反対の指向性ゆえに、これまで同一の議論の俎上に上ることがなかった。だが、近年、アメリカ文学・文化研究の分野においては「モダニズム」再解釈の気運が高まり、様々な視点から数多くの画期的な著作が出版されるようになった。

本研究に関連する重要な研究書としては Stott, William. *Documentary Expression and Thirties America*. Chicago: U of Chicago P, 1987; Hansom, Paul. *Literary Modernism and Photography*. London: Praeger, 2002; Entin, Joseph B. *Sensational Modernism: Experimental Fiction and Photography in Thirties America*. Chapel Hill: U of North Carolina P, 2007; Allred, Jeff. *American Modernism and Depression Documentary*. Oxford: Oxford UP, 2010 の4冊が挙げられるが、他には残念ながらあまり見られないのが現状であり、この方面での研究が進んでいるとは言い難い。

(2)

第二次世界大戦をはさんだ数十年間には、現在ほとんど注目されることのないモダニスト作家と写真家との共同作品「フォト・テキスト」が出版され人気を博した。これらは、批評的に看過され、研究対象としては取り上げられてこなかった。1930-1960年までに出版されたフォト・テキストが、南部作家とFSA写真家による「南部」という特色ある一地域を題材にしたものばかりという事実は見過ごすことのできない事実である。

作家 Erskine Caldwell と写真家 Margaret Bourke-White の合作 *You Have Seen Their Faces* (1937)。そして、作家 James Agee と写真家 Walker Evans の合作 *Let Us Now Praise Famous Men* (1941)。作家と写真家との共時的な合作とは言えないまでも、FSA写真家を挿絵替わりに使用したフォト・テキストとして、作家 Sherwood Anderson の *Home Town* (1940)、作家 Richard Wright の *12 Million Black Voices* (1941)がある。とりわけ、モダニスト南部作家と写真家の相関関係を証明する興味深い例は、William Faulkner と Walker Evans との後期作品における相互

影響である。Faulkner の “Sepulture South” (1952) は、初出雑誌『ハーバース・バザー』においてエヴァンズの写真とともに発表され、逆に、エヴァンズの 1948 年の “Faulkner’s Mississippi” は Faulkner の小説群に着想を得ている。

上述の作家及び写真家たちの知名度の高さと上述のフォト・テキストの知名度の低さには、天地の相違がある。アメリカ文学・文化研究において、これら南部作家と FSA 写真家による無名のフォト・テキストに焦点を当て、モダニズム文学とドキュメンタリー写真との相互影響関係を明らかにすることは、研究者の急務であると考えた。

(3)

本研究は、こうした現状を踏まえ、(1)に挙げた研究書が開拓したモダニズムとドキュメンタリーの交差という新しい視点を受け継ぐとともに、(2)に述べた「フォト・テキスト」という新規性のある研究対象を通して、独自のモダニズム/ドキュメンタリー論を実証的に構築しようと計画するに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、米国モダニズム文学とドキュメンタリー写真との相互影響関係を実証することである。従来、相互排他的な別個の文化現象と考えられてきたモダニズム文学とドキュメンタリー写真との接点に注目することにより、モダニズム/ドキュメンタリーの再定義を試みる。

具体的には、これまで看過されてきたモダニスト作家と写真家との共同作品「フォト・テキスト」を研究対象に据え、モダニズムの変容とフォト・ジャーナリズムの発展を、別個の現象としてではなく、互いに影響・補完しあう「統一の」文化現象として読み直しを図る。

3. 研究の方法

(1)

モダニズム文学とドキュメンタリー写真との相互影響関係を実証するという研究目的を達成するために、モダニズムの最盛期からフォト・ジャーナリズムの最盛期を繋ぐ 1930 年から 1960 年までに発表された「フォト・テキスト」に研究の射程を定めた。

(2)

実証的研究という観点から、メトロポリタン美術館（ニューヨーク）およびジェイ・ポール・Getty 美術館（ロサンゼルス）でのアーカイヴ調査における一次資料（電子化されたネガ、コンタクト・プリント、コンタクト・シート、書簡、マニユスクリプト、エフェメラ等）の精査・分析を行うとともに、出

版された完成原稿の読解を行った。

4. 研究成果

本研究課題の成果について、国内外において最もインパクトを与えられる成果は、ウォーカー・エヴァンズとウィリアム・フォークナーとの相互影響関係に関する研究である。

平成 24 年度は、主に基礎資料の収集とその読解・検討を行った。特に、これまで研究者に看過されてきたウィリアム・フォークナーとウォーカー・エヴァンズの後期作品にみられる相互影響関係についての研究を進めた。

この成果の一部については、同年 10 月に開催された日本ウィリアム・フォークナー協会全国大会にて、「ふたりの『レイト・モダニスト』? ウィリアム・フォークナーとウォーカー・エヴァンズ」と題して発表を行った。また、平成 25 年 2 月に開催された京都ノートルダム女子大学研究プロジェクト報告会において、「フォトジャーナリズムとモダニズム文学」と題して発表を行った。

平成 25 年度は、主に基礎資料の収集とその読解・検討に加えて、米国ニューヨークにおいて、メトロポリタン美術館所蔵のウォーカー・エヴァンズ・スペシャルコレクションのアーカイヴ調査を行った。本アーカイヴ調査の過程においては、米国ロサンゼルスジェイ・ポール・Getty 美術館も同プロジェクトに関すると思われるコンタクト・プリントを所蔵していることがわかり、平成 26 年度の夏季に再度アーカイヴ調査をする予定を加えた。

平成 26 年度は、前年度の米国メトロポリタン美術館所蔵のウォーカー・エヴァンズ・スペシャルコレクションのアーカイヴ調査結果の分析を行った。これまで同定されていなかった重要な写真対象を特定することが出来、研究を大きく前進させることとなった。この発見については、エヴァンズの 1948 年における南部撮影旅行の旅を再構築する論文のなかで発表予定であり、その同定は、キュレーターおよび研究者に一定の驚きをもって受け止められることと思う。

夏季期間中には、前年度に計画した通り、米国ロサンゼルスジェイ・ポール・Getty 美術館にて、ウォーカー・エヴァンズによる写真エッセイ「フォークナー・ミシシッピ」に関連する 71 枚のコンタクト・プリントおよびマケットについての調査を行った。この調査により、既存の研究では明らかにされていない新事実を発見することができた。後期期間中は、これまでの研究期間中に収集することのできた膨大な資料および撮影画像の整理と分析を行い、論文への道筋をつけた。

本研究期間においては、二カ年にわたるアーカイヴ調査結果とあわせてフォークナーとエヴァンズの 50 年代前後の後期作品を比較検討することにより、より実証的にモダニ

ズム文学とドキュメンタリー写真との相互影響関係を解明することができたと考えている。本研究の成果については、順次、ジャーナルおよび共著本にて発表予定である。

ただし、本研究においては、3 年間の研究期間のうち、2 年間は FSA 写真を用いたフォト・テキスト研究に従事し、最後 1 年は、研究の集大成として、フォークナーとエヴァンズの後期作品にみられる相互影響関係を明らかにする予定であった。当初の予定とは異なり、フォークナーとエヴァンズの後期作品についての資料が膨大であり、その研究を中心として進めることとなった。当初の見通しの甘さに加えて、写真というメディア特有の研究手法の困難さと、研究期間内に海外アーカイヴ調査を頻繁に行けないという時間的制約によるものが大きかったといえる。そのため、研究期間内に未発表の成果がある。

しかしながら、平成 27 年度より、本研究を発展する研究として、基盤研究(C)「写真家ウォーカー・エヴァンズとモダニズム文学者の学際的比較研究」(研究課題番号: 15K02368)に研究代表者として、基盤研究(C)モダニズムの大衆化と英米プリント・カルチャーの戦略の関係についての研究(研究課題番号: 15K02346)に研究分担者として従事することが叶い、本研究の成果を基盤として、研究射程を広げるとともに深化させていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 5 件)

山本 裕子、「戦争と記憶のアメリカン・シアター フォークナーと兵士の帰還」、日本英文学会関西支部支部大会英米文学部門シンポジウム、2014 年 12 月 22 日、立命館大学(京都府京都市)

山本 裕子、「フォークナーのレイト・スタイル 1950 年代作品における老作家ペルソナと冷戦コンテクスト」、フォークナーと老いの表象研究会、2013 年 9 月 28 日、中京大学(愛知県名古屋)

山本 裕子、「フォトジャーナリズムとモダニズム文学 エヴァンズとフォークナー」、京都ノートルダム女子大学研究プロジェクト報告会、2013 年 2 月 13 日、京都ノートルダム女子大学(京都府京都市)

山本 裕子、「アメリカ文学と視覚文化 ホーソン、フォークナー、パワーズ、デリー口を通して」、日本アメリカ文学会関西支部例会シンポジウム司会、2012 年 11 月 17 日、武庫川女子大学(兵

庫県西宮市)

山本 裕子、「ふたりの『レイト・モダニスト』? ウィリアム・フォークナーとウォーカー・エヴァンズ」、日本ウィリアム・フォークナー協会第10回全国大会、2012年10月12日、中京大学(愛知県名古屋市)

〔図書〕(計1件)

山本 裕子 他8名、8番目、「フォークナーのレイト・スタイル 後期作品におけるメモワール形式と老いのペルソナ」、金澤哲編『ウィリアム・フォークナーと老いの表象』、松籟社、2015年刊行予定、205-227

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本 裕子 (YAMAMOTO, Yuko)
京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：80545377